
北茨城市
男女共同参画社会に関する意識調査報告書

《概要版》

令和4年5月

北茨城市

目 次

1. 調査の概要	1
2. 小中学生調査結果	2
3. 市民調査結果	3
4. 事業所調査結果	16
5. 職員調査結果	19

1. 調査の概要

(1)目的

第4次きたいばらき男女共同参画プランの策定にあたり、男女がお互いを尊重し、共にいきいきと暮らせる「男女共同参画社会」の実現と女性の活躍による豊かで活力のある地域社会の実現に向けてアンケート調査を実施しました。

(2)調査期間

小中学生 令和3年12月1日(水)～令和3年12月27日(月)

市民 令和3年12月1日(水)～令和4年1月18日(火)

事業所 令和3年12月1日(水)～令和4年1月18日(火)

市職員 令和3年12月1日(水)～令和4年1月18日(火)

(3)調査対象者

小中学生 市内小中学校の児童生徒 623名(小学5年生・中学2年生)

市民 北茨城市内に在住で、16歳以上の男女 3,000人(無作為抽出)

事業所 市内企業 100社

市職員 市職員 632名(正規職員及び会計年度任用職員)

(4)配布数及び回収数

	配布数	回収数	回収率
小中学生	623件	586件	94.0%
市民	3,000件	1,103件	36.8%
事業所	100件	40件	40.0%
職員	Web調査 227件		

(5)報告書の見方

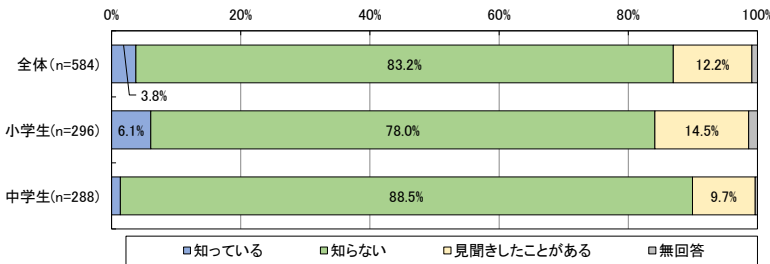
- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・本報告書では、回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は「非該当」として扱います。
- ・設問の構成比は、回答者数(該当設問での該当者数)を基数として百分率(%)で示しています。したがって、非該当者数は、構成比に含まれません。
- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答については、回答者数を基数として百分率(%)で示しています。したがって、合計値は100%にならない場合もあります。
- ・本報告書では、回答合計の表記を単一(○は一つ)回答は「合計」、複数(○はいくつでも)回答は「回答者数」としています。非該当処理が含まれる設問は「回答者数」と表記しています。また、割合を設定している項目名について、単一回答は「構成比」、複数回答は「比率」と表記しています。

2. 小中学生調査結果

「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「男女共同参画社会」という言葉を知っているかについて、小学生は「知らない」が78.0%と最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が14.5%、「知っている」が6.1%となっています。

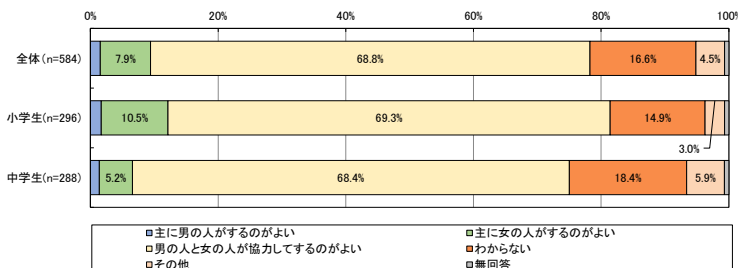
中学生は「知らない」が88.5%と最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が9.7%、「知っている」が1.4%となっています。



		知っている	知らない	見聞きしたことがある	無回答	合計
度数	全体	22	486	71	5	584
	小学生	18	231	43	4	296
	中学生	4	255	28	1	288
構成比	全体 (n=584)	3.8%	83.2%	12.2%	0.9%	100.0%
	小学生 (n=296)	6.1%	78.0%	14.5%	1.4%	100.0%
	中学生 (n=288)	1.4%	88.5%	9.7%	0.3%	100.0%

あなたは、食事のしたくやそうじ・洗たくなどの家事は、だれがするのが一番良いと思いますか。(〇は1つ)

家事は、だれがするのが一番良いと思うかについて、小学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が69.3%と最も多く、次いで「わからない」が14.9%、「主に女の人がするのがよい」が10.5%となっています。中学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が68.4%と最も多く、次いで「わからない」が18.4%、「その他」が5.9%となっています。

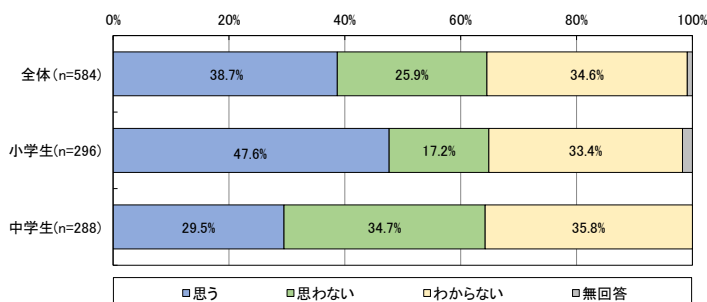


		主に男の人がよい	主に女の人がよい	男の人が協力してよい	わからない	その他	無回答	合計
度数	全体	9	46	402	97	26	4	584
	小学生	5	31	205	44	9	2	296
	中学生	4	15	197	53	17	2	288
構成比	全体 (n=584)	1.5%	7.9%	68.8%	16.6%	4.5%	0.7%	100.0%
	小学生 (n=296)	1.7%	10.5%	69.3%	14.9%	3.0%	0.7%	100.0%
	中学生 (n=288)	1.4%	5.2%	68.4%	18.4%	5.9%	0.7%	100.0%

あなたは学校にいる時、男子と女子は平等だと思いますか。(〇は1つ)

学校にいる時、男子と女子は平等だと思うかについて、小学生は「思う」が47.6%と最も多く、次いで「わからない」が33.4%、「思わない」が17.2%となっています。

中学生は「わからない」が35.8%と最も多く、次いで「思わない」が34.7%、「思う」が29.5%となっています。



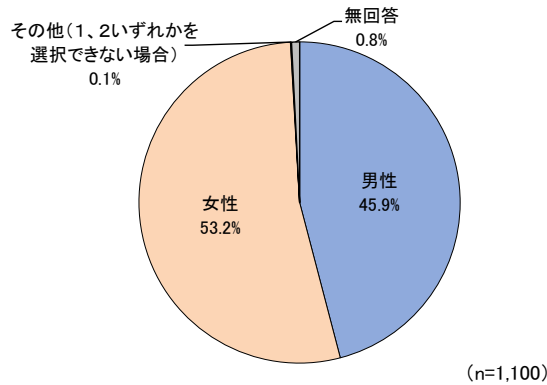
		思う	思わない	わからない	無回答	合計
度数	全体	226	151	202	5	584
	小学生	141	51	99	5	296
	中学生	85	100	103	0	288
構成比	全体 (n=584)	38.7%	25.9%	34.6%	0.9%	100.0%
	小学生 (n=296)	47.6%	17.2%	33.4%	1.7%	100.0%
	中学生 (n=288)	29.5%	34.7%	35.8%	0.0%	100.0%

3. 市民調査結果

◇ あなた（回答者）ご自身について

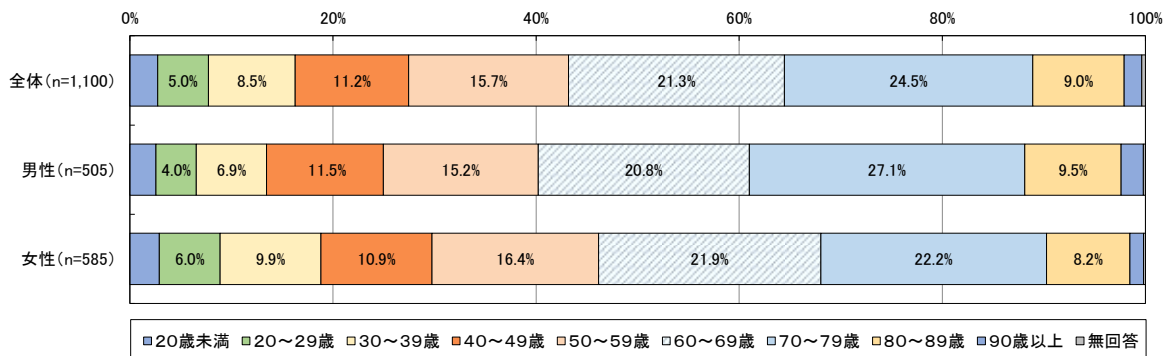
あなたの性別は次のどちらですか。(〇は1つ)

「女性」が 53.2%、「男性」が 45.9%となっています。



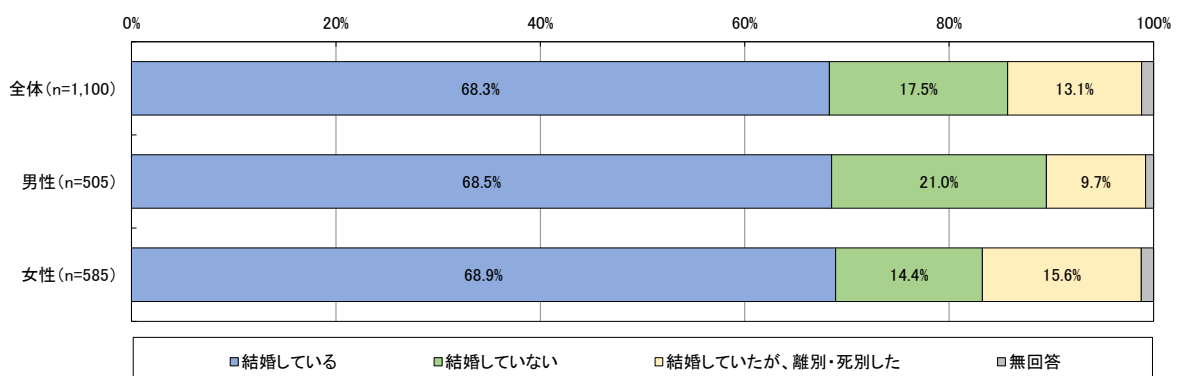
あなたの年齢は次のどれですか。(記入日時点の年齢で。〇は1つ)

「70～79歳」が 24.5%と最も多く、次いで「60～69歳」が 21.3%、「50～59歳」が 15.7%となっています。



あなたは、結婚(事実婚等も含みます)していますか。(〇は1つ)

「結婚している」が 68.3%と最も多く、次いで「結婚していない」が 17.5%、「結婚していたが、離別・死別した」が 13.1%となっています。

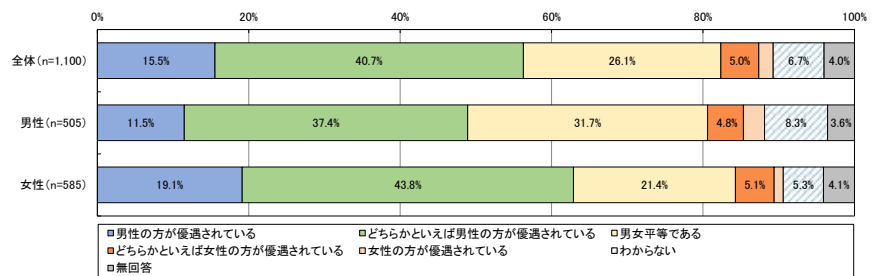


◇ 男女平等について

あなたは次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。次の項目についてお答えください。
(○は各項目1つずつ)

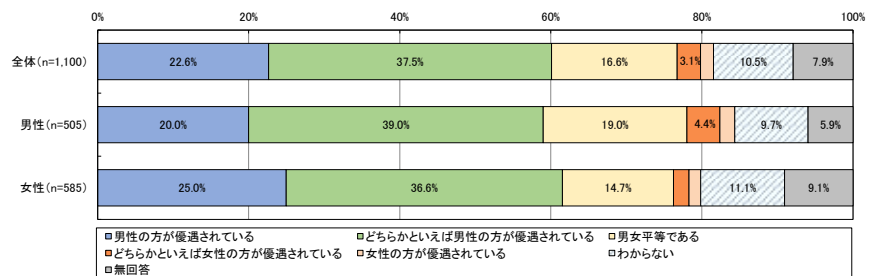
【家庭生活で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.7%と最も多く、次いで「男女平等である」が26.1%となっています。



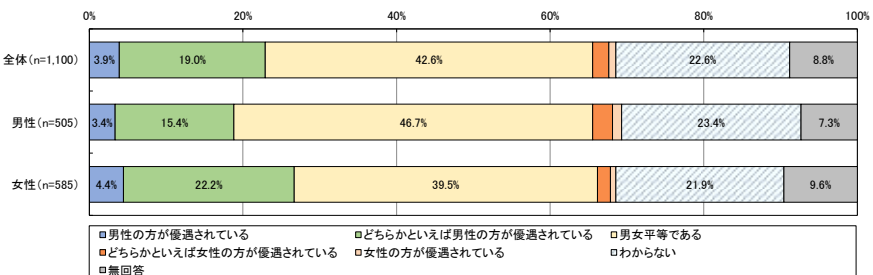
【職場で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.5%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が22.6%となっています。



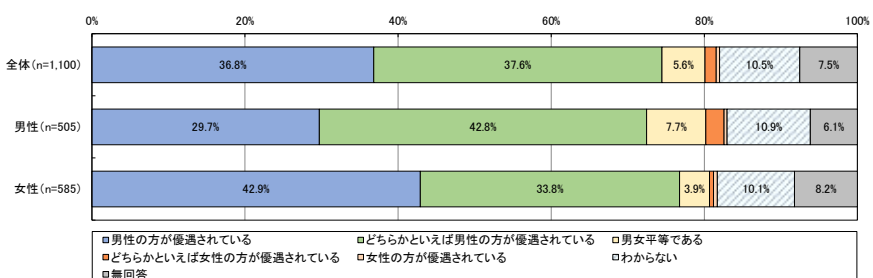
【学校教育の場で】

「男女平等である」が最も多く42.6%、次いで「わからない」が22.6%となっています。



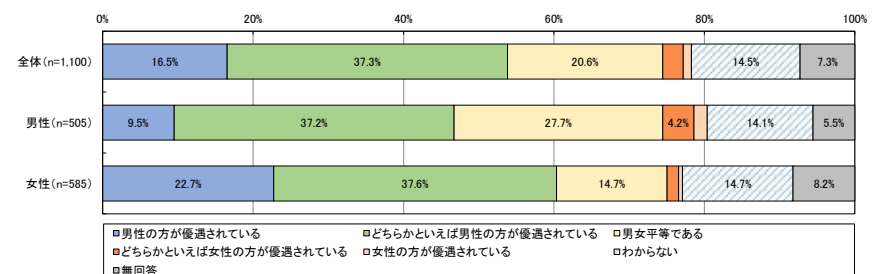
【政治の場で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.6%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が36.8%となっています。



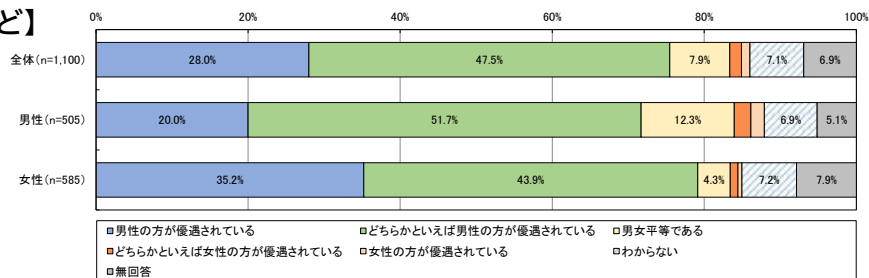
【法律や制度のうえで】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.3%と最も多く、次いで「男女平等である」が20.6%となっています。



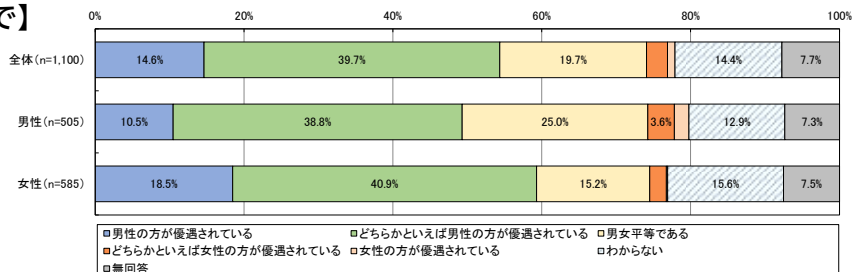
【社会通念・慣習・しきたりなど】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.5%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が28.0%となっています。



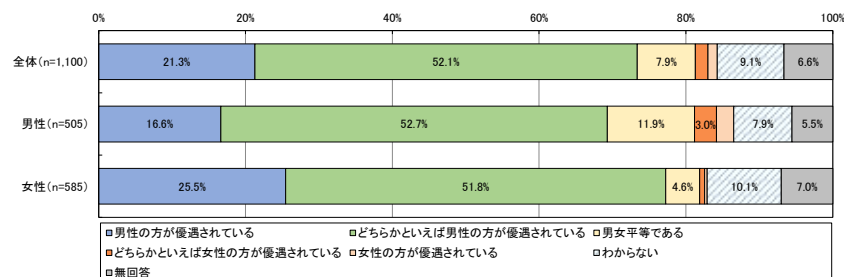
【自治会などの地域活動の場で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.7%と最も多く、次いで「男女平等である」が19.7%となっています。



【社会全体で】

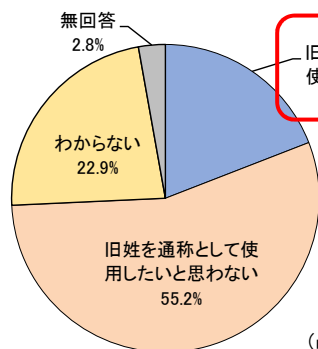
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く52.1%、次いで「男性の方が優遇されている」が21.3%となっています。



◇ 旧姓使用について

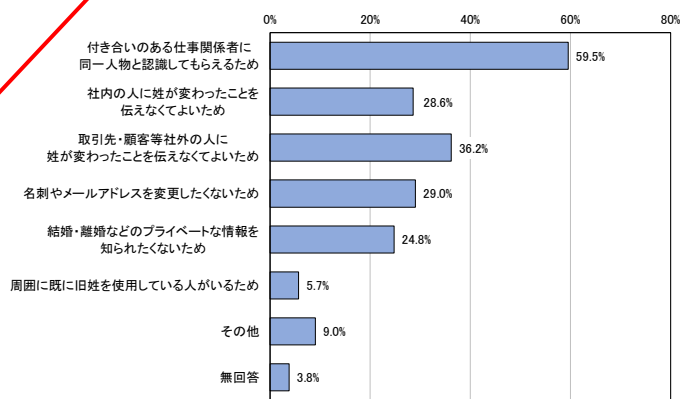
あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字(姓)が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。あなたが結婚なさっている、いないに関わらず、お答えください。(〇は1つ)

「旧姓を通称として使用したいと思わない」が55.2%と最も多く、次いで「わからない」が22.9%、「旧姓を通称として使用したいと思う」が19.1%となっています。



(n=1,100)

旧姓を通称として使用したいと思う理由



(n=210)

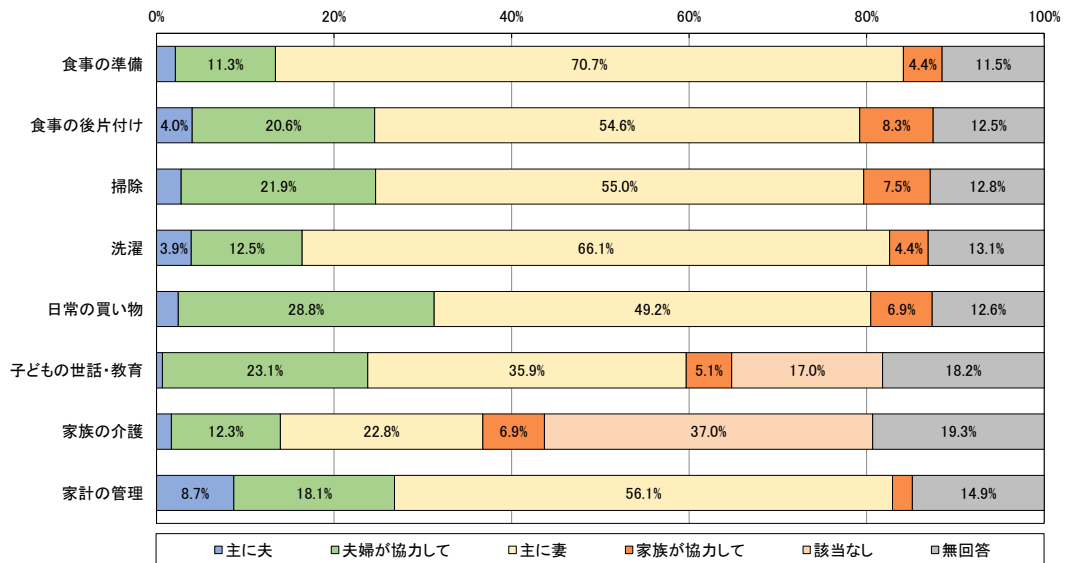
「付き合いのある仕事関係者に同一人物と認識してもらえるため」が59.5%と最も多く、次いで「取引先・顧客等社外の人に姓が変わったことを伝えなくてよいため」が36.2%となっています。

◇ 家庭生活、地域活動との関わりかたについて

あなたの家庭では、次の項目の家事などは、どなたがされていますか。また、あなたの理想ではどのようにしたいと思いますか。

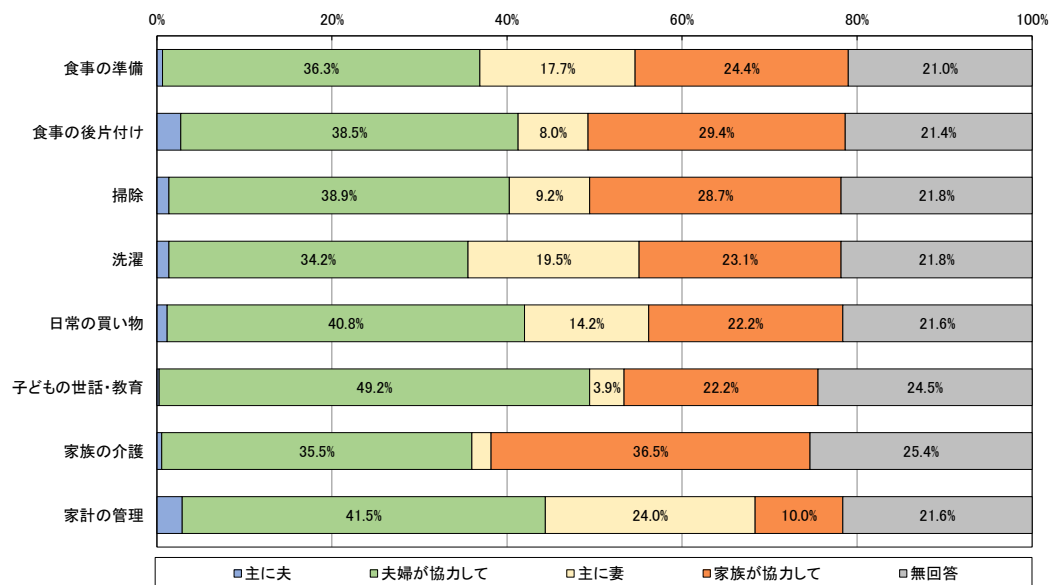
家庭の家事などについて、【理想】では「夫婦が協力して」「家族が協力して」が多いものの、【現実】では、図部手の項目において「主に妻」が最も多くなっています。(該当なしを除く)

【現状】 ※結婚している方(事実婚等も含む)が回答



(n=895)

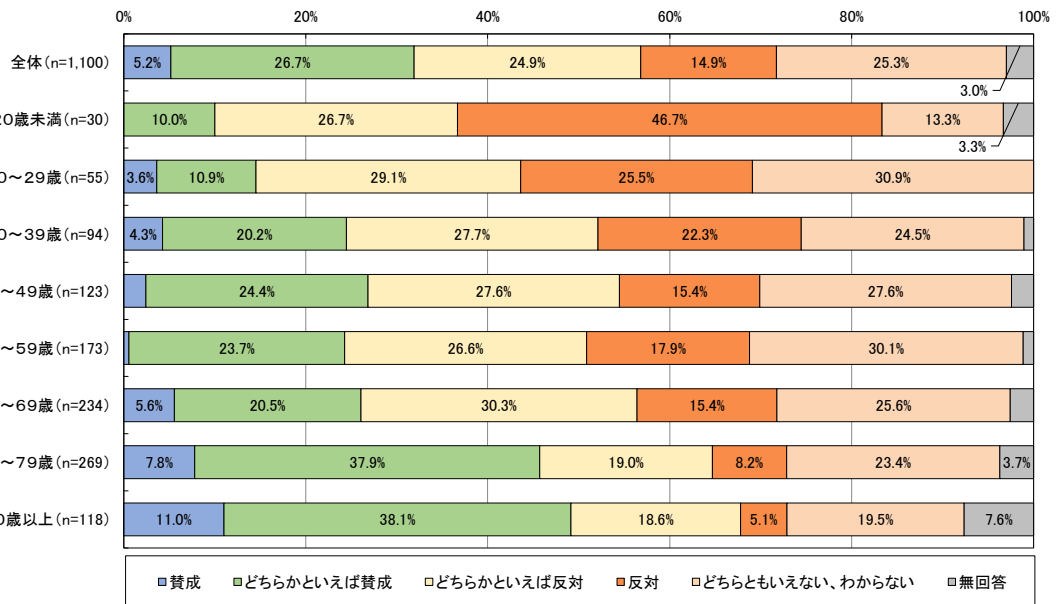
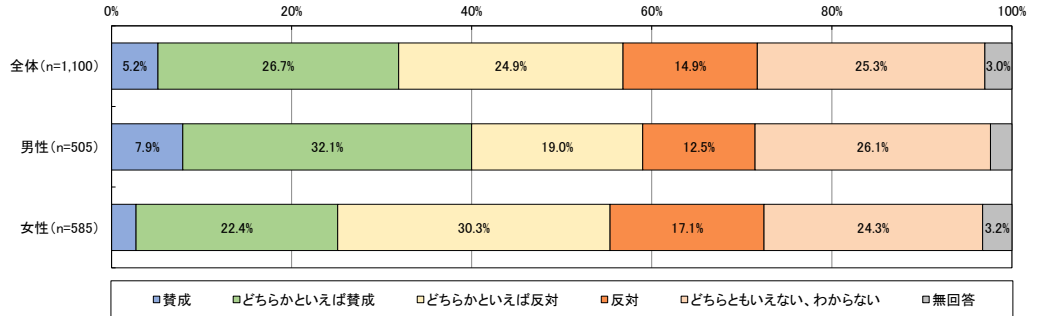
【理想】 ※すべての方が回答



(n=1,100)

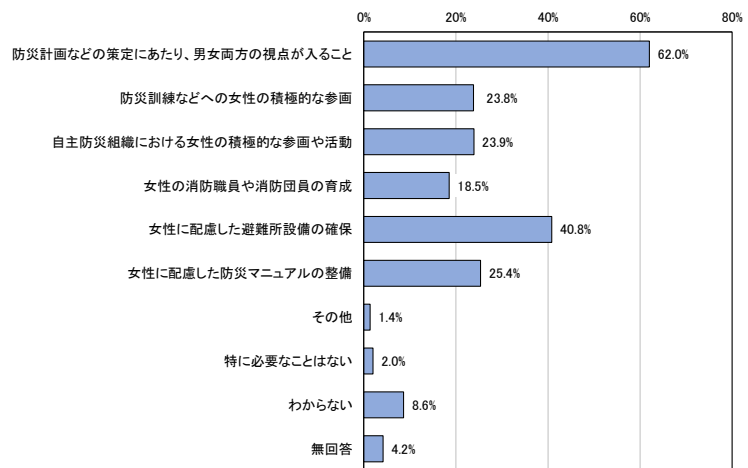
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、あなたの考えに一番近いものは次のうちどれですか。(〇は1つ)

「どちらかといえば賛成」が 26.7%と最も多く、次いで「どちらともいえない、わからない」が 25.3%、「どちらかといえば反対」が 24.9%となっています。



防災(災害復興も含みます)活動に関して、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は特に必要だと思うもの3つまで)

「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」が 62.0%と最も多く、次いで「女性に配慮した避難所設備の確保」が 40.8%、「女性に配慮した防災マニュアルの整備」が 25.4%となっています。

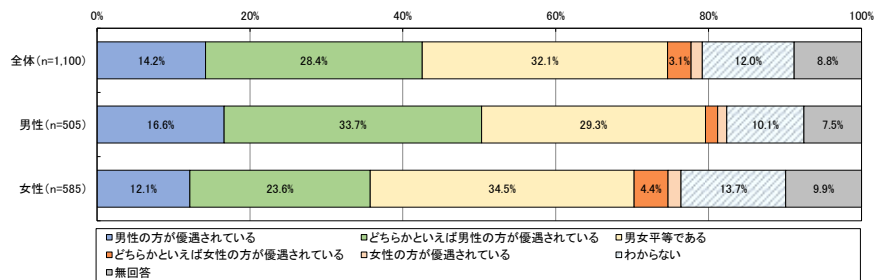


◇ 職業・職業環境について

あなたの今の職場、あるいは元の職場で、次の項目について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(○は各項目から1つずつ)

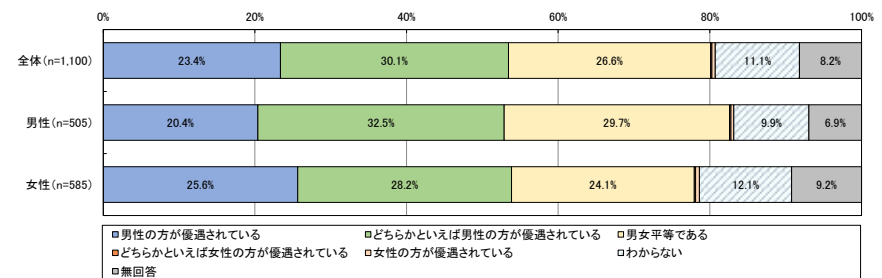
【募集・採用】

「男女平等である」が32.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が28.4%となっています。



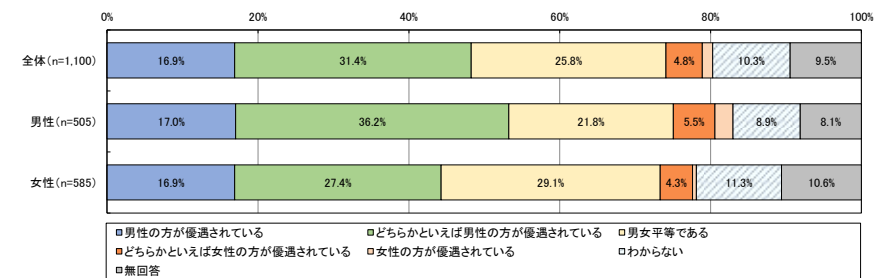
【賃金】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.1%と最も多く、次いで「男女平等である」が26.6%となっています。



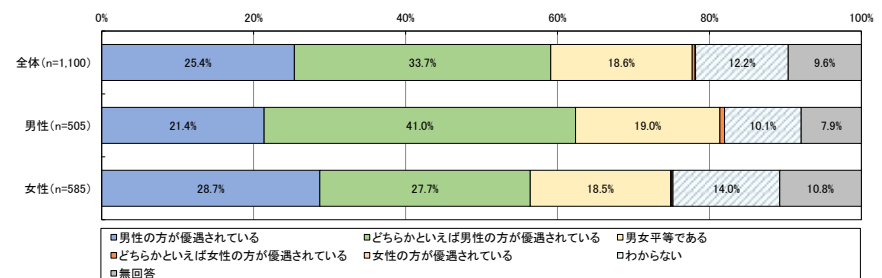
【業務(内容、責任)】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が31.4%と最も多く、次いで「男女平等である」が25.8%となっています。



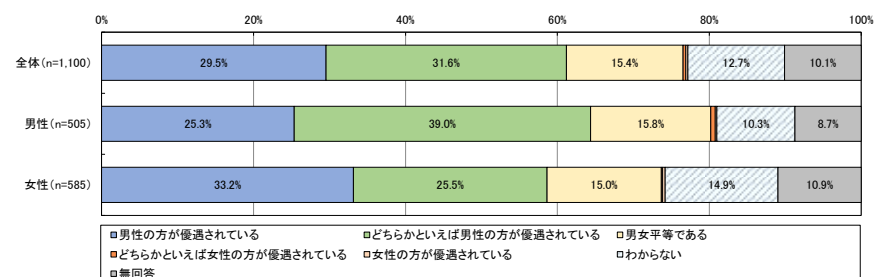
【昇進、昇格】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が33.7%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が25.4%となっています。



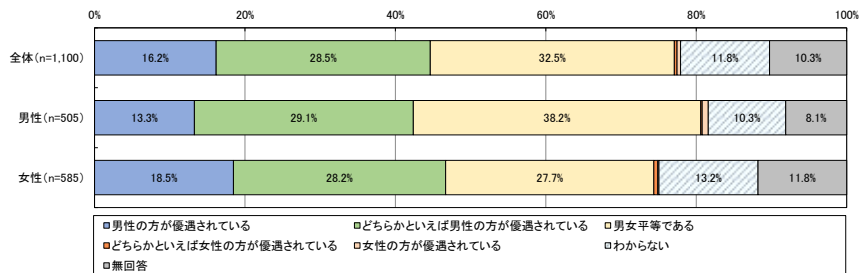
【管理職への登用】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が31.6%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が29.5%となっています。



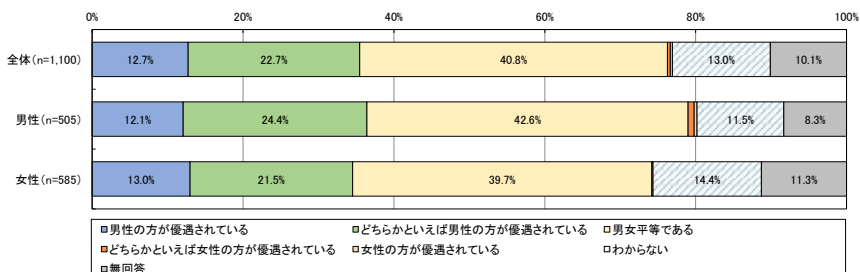
【能力評価】

「男女平等である」が32.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が28.5%となっています。



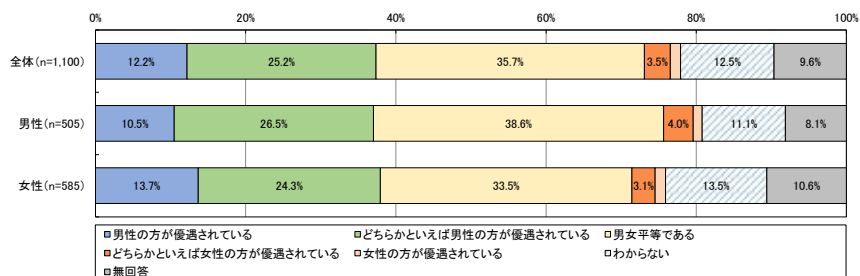
【研修(機会、内容)】

「男女平等である」が40.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が22.7%となっています。



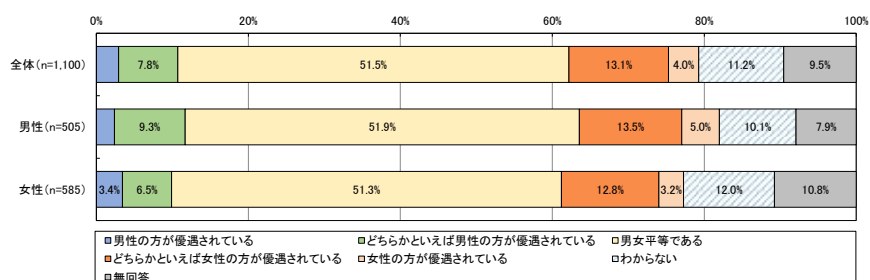
【働きやすさ】

「男女平等である」が35.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が25.2%となっています。



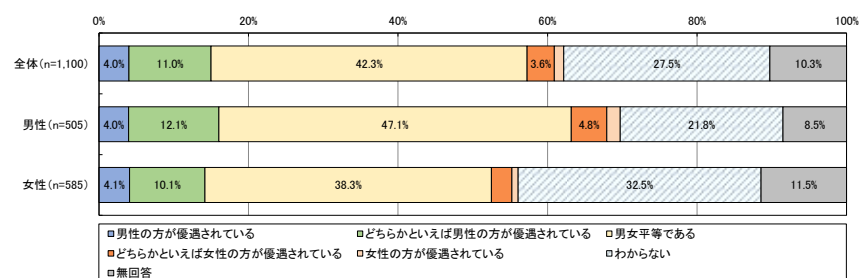
【休暇の取得しやすさ】

「男女平等である」が51.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が13.1%となっています。



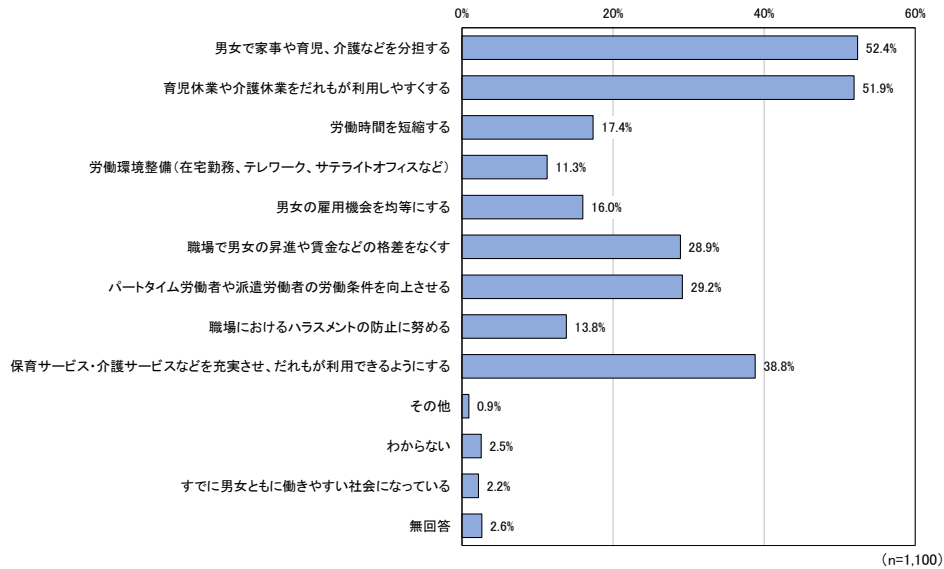
【労働環境整備(在宅ワーク、テレワークなども含む)】

「男女平等である」が42.3%と最も多く、次いで「わからない」が27.5%となっています。



男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

「男女で家事や育児、介護などを分担する」が52.4%と最も多く、次いで「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が51.9%、「保育サービス・介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」が38.8%となっています。



		男女で家事や育児、介護などを分担する	育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする	労働時間を短縮する	労働環境整備（在宅勤務、テレワーク、サテライトオフィスなど）	男女の雇用機会を均等にする	職場で男女の昇進や賃金などの格差をなくす	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場におけるハラスメントの防止に努める	保育サービス・介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする	その他	わからない	すでに男女ともに働きやすい社会になっている	無回答
性別	全体 (n=1,100)	52.4%	51.9%	17.4%	11.3%	16.0%	28.9%	29.2%	13.8%	38.8%	0.9%	2.5%	2.2%	2.6%
	男性 (n=505)	49.9%	51.1%	22.0%	14.3%	18.8%	26.7%	27.7%	11.1%	35.4%	1.6%	2.6%	1.6%	2.0%
	女性 (n=585)	54.5%	52.6%	13.5%	8.9%	13.5%	30.8%	30.4%	16.4%	41.9%	0.3%	2.4%	2.7%	2.9%
	無回答 (n=9)	55.6%	44.4%	11.1%	0.0%	22.2%	22.2%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	22.2%
年齢別	全体 (n=1,100)	52.4%	51.9%	17.4%	11.3%	16.0%	28.9%	29.2%	13.8%	38.8%	0.9%	2.5%	2.2%	2.6%
	20歳未満 (n=30)	66.7%	53.3%	16.7%	6.7%	20.0%	56.7%	6.7%	23.3%	33.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳 (n=55)	54.5%	63.6%	30.9%	18.2%	9.1%	32.7%	18.2%	23.6%	23.6%	0.0%	1.8%	3.6%	0.0%
	30～39歳 (n=94)	52.1%	53.2%	33.0%	9.6%	14.9%	30.9%	22.3%	11.7%	48.9%	2.1%	0.0%	1.1%	0.0%
	40～49歳 (n=123)	56.1%	51.2%	23.6%	14.6%	13.0%	31.7%	24.4%	17.9%	35.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%
	50～59歳 (n=173)	49.1%	47.4%	18.5%	13.9%	13.3%	28.9%	31.2%	13.9%	38.7%	1.2%	1.7%	2.9%	2.3%
	60～69歳 (n=234)	52.6%	55.1%	12.8%	8.5%	16.7%	27.4%	38.5%	16.2%	44.9%	0.9%	2.1%	0.9%	0.9%
	70～79歳 (n=269)	55.0%	50.2%	13.4%	11.9%	19.3%	27.1%	31.6%	11.2%	37.5%	0.4%	3.0%	2.2%	4.5%
	80歳以上 (n=118)	42.4%	49.2%	9.3%	7.6%	16.9%	22.9%	22.9%	5.9%	33.1%	1.7%	7.6%	5.1%	8.5%
	無回答 (n=4)	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%

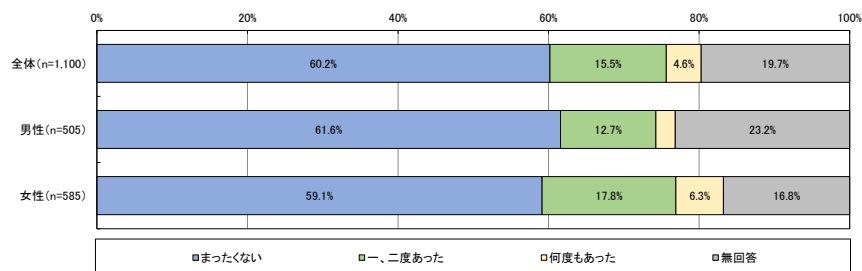
◇ ドメスティックバイオレンス (DV)、セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) について

【結婚している、結婚していた方、(事実婚含む)交際の経験がある方にうかがいます】あなたはこれまでに、配偶者や恋人から次の項目のようなことをされたことがありますか。
(○は各項目から1つずつ)

【身体的暴力】

(なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)

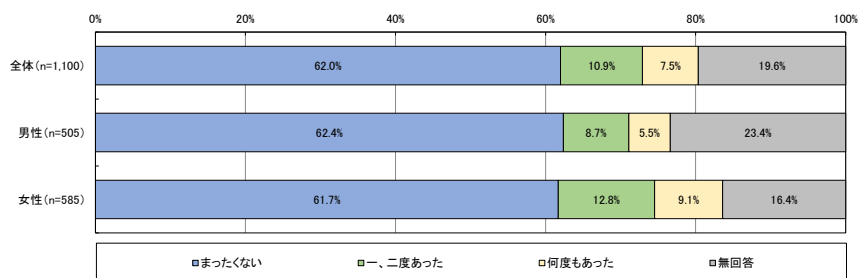
「まったくない」が60.2%と最も多く、次いで「一、二度あった」が15.5%となっています。



【精神的暴力】

(人格を否定するような暴言、交友関係の行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じる脅迫など)

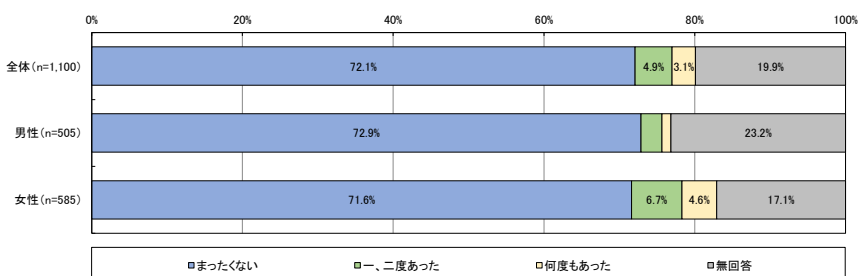
「まったくない」が62.2%と最も多く、次いで「一、二度あった」が10.9%となっています。



【経済的暴力】

(デート代をむりやり払わされる、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)

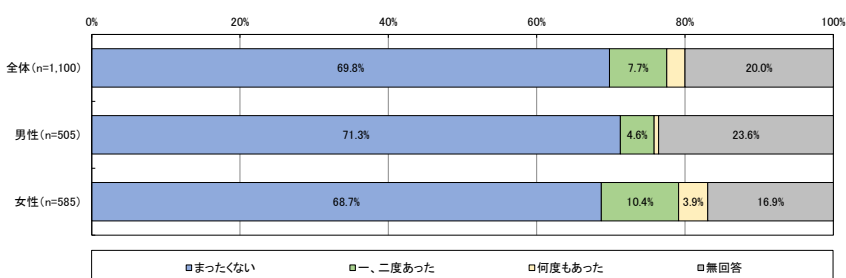
「まったくない」が72.1%と最も多く、次いで「一、二度あった」が4.9%となっています。



【性的暴力】

(嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)

「まったくない」が69.8%と最も多く、次いで「一、二度あった」が7.7%となっています。



「一、二度あった」「何度もあった」と答えた方にうかがいます】あなたは、そのことをだれかに打ち明けるか、相談したことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が45.8%と最も多く、次いで「家族に相談した」が35.4%、「友人・知人に相談した」が25.0%となっています。

		友人・知人に相談した	家族に相談した	警察に連絡・相談した	市・県の相談員や機関に相談した	医師・カウンセラーに相談した	人権擁護委員または人権相談窓口で相談した	弁護士など	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
性別	全体(n=48)	25.0%	35.4%	2.1%	0.0%	4.2%	2.1%	0.0%	4.2%	45.8%	6.3%
	男性(n=12)	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.3%	16.7%
	女性(n=34)	23.5%	44.1%	2.9%	0.0%	5.9%	2.9%	0.0%	5.9%	41.2%	2.9%
	無回答(n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
年齢別	全体(n=48)	25.0%	35.4%	2.1%	0.0%	4.2%	2.1%	0.0%	4.2%	45.8%	6.3%
	20歳未満(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20～29歳(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30～39歳(n=6)	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
	40～49歳(n=5)	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%
	50～59歳(n=11)	18.2%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%	9.1%
	60～69歳(n=13)	30.8%	38.5%	7.7%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	38.5%	7.7%
	70～79歳(n=9)	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	44.4%	0.0%
	80歳以上(n=2)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	無回答(n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

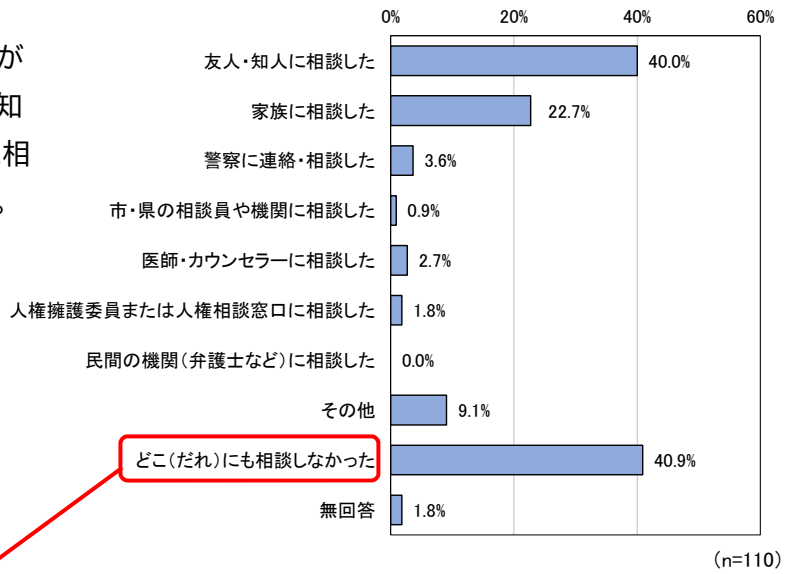
セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)による被害を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

「直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている」が49.5%と最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントという言葉を見たことはある」が32.7%、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる」が17.8%となっています。

		直接経験したことがある	直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる	直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)という言葉を見たことはある	そういう言葉は今まで聞いたことがない	その他	無回答
性別	全体(n=1,100)	10.0%	17.8%	49.5%	32.7%	4.9%	0.5%	11.4%
	男性(n=505)	5.0%	19.2%	55.0%	32.9%	5.0%	0.6%	10.7%
	女性(n=585)	14.4%	16.9%	45.0%	33.0%	4.8%	0.3%	11.5%
	無回答(n=9)	0.0%	0.0%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	44.4%
年齢別	全体(n=1,100)	10.0%	17.8%	49.5%	32.7%	4.9%	0.5%	11.4%
	20歳未満(n=30)	6.7%	3.3%	60.0%	43.3%	3.3%	0.0%	3.3%
	20～29歳(n=55)	10.9%	21.8%	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%
	30～39歳(n=94)	14.9%	25.5%	46.8%	16.0%	9.6%	0.0%	1.1%
	40～49歳(n=123)	11.4%	28.5%	52.8%	24.4%	2.4%	0.8%	2.4%
	50～59歳(n=173)	17.3%	24.9%	50.9%	26.6%	2.3%	0.0%	4.0%
	60～69歳(n=234)	10.3%	16.7%	56.0%	36.3%	3.4%	1.3%	6.8%
	70～79歳(n=269)	5.9%	13.8%	49.1%	47.2%	4.8%	0.0%	17.1%
	80歳以上(n=118)	3.4%	4.2%	30.5%	28.8%	8.5%	0.8%	41.5%
	無回答(n=4)	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%

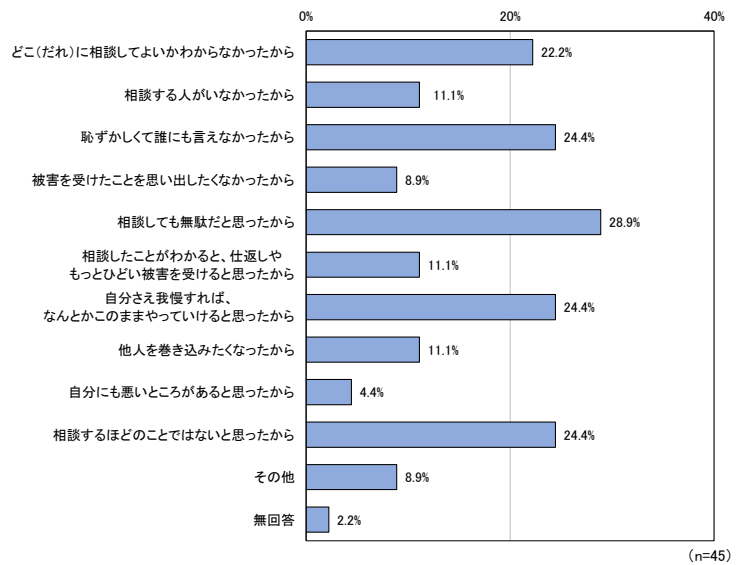
【1. 直接経験したことがある」と答えた方にうかがいます】あなたは、そのことをだれかに打ち明けるか、相談したことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

どこ(だれ)にも相談しなかった」が40.9%と最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が40.0%、「家族に相談した」が22.7%となっています。



相談しなかった理由

「相談しても無駄だと思ったから」が28.9%と最も多く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が24.4%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が24.4%、「相談するほどのことではないと思ったから」が24.4%となっています。

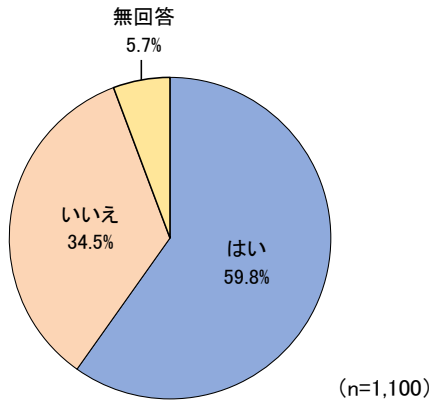


		どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	相談する人がいなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	被害を受けたことを思い出したくなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい被害を受けると思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
性別	全体(n=45)	22.2%	11.1%	24.4%	8.9%	28.9%	11.1%	24.4%	11.1%	4.4%	24.4%	8.9%	2.2%
	男性(n=10)	20.0%	10.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	50.0%	30.0%	10.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	女性(n=34)	23.5%	11.8%	26.5%	11.8%	23.5%	14.7%	17.6%	5.9%	2.9%	23.5%	11.8%	2.9%
	無回答(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	全体(n=45)	22.2%	11.1%	24.4%	8.9%	28.9%	11.1%	24.4%	11.1%	4.4%	24.4%	8.9%	2.2%
	20歳未満(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20~29歳(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30~39歳(n=7)	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%	57.1%	28.6%	42.9%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
	40~49歳(n=4)	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	50~59歳(n=13)	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	23.1%	7.7%	23.1%	7.7%	0.0%	38.5%	15.4%	0.0%
	60~69歳(n=8)	12.5%	0.0%	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	12.5%
	70~79歳(n=10)	40.0%	10.0%	40.0%	10.0%	20.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	80歳以上(n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

□ 性的マイノリティについて

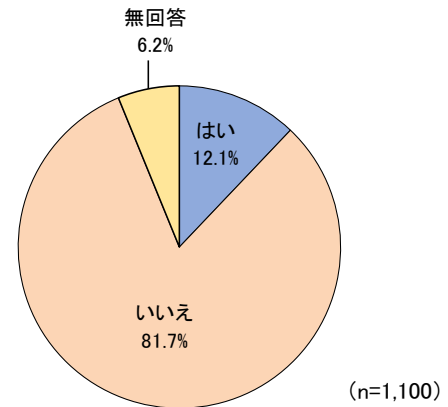
あなたは性的マイノリティ(またはLGBTQ)という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「はい」が59.8%と最も多く、次いで「いいえ」が34.5%となっています。



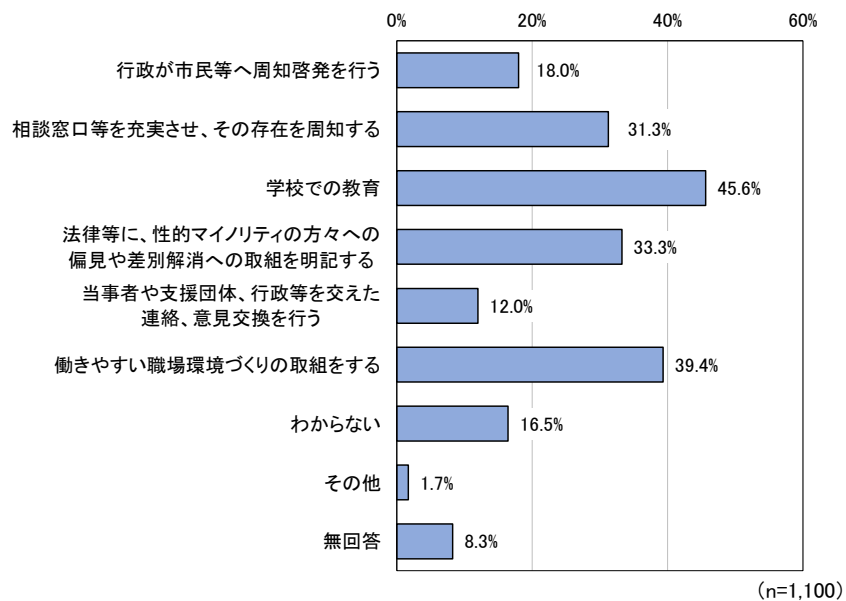
あなたは、いばらきパートナーシップ宣言を知っていますか。(〇は1つ)

「いいえ」が81.7%と最も多く、次いで「はい」が12.1%となっています。



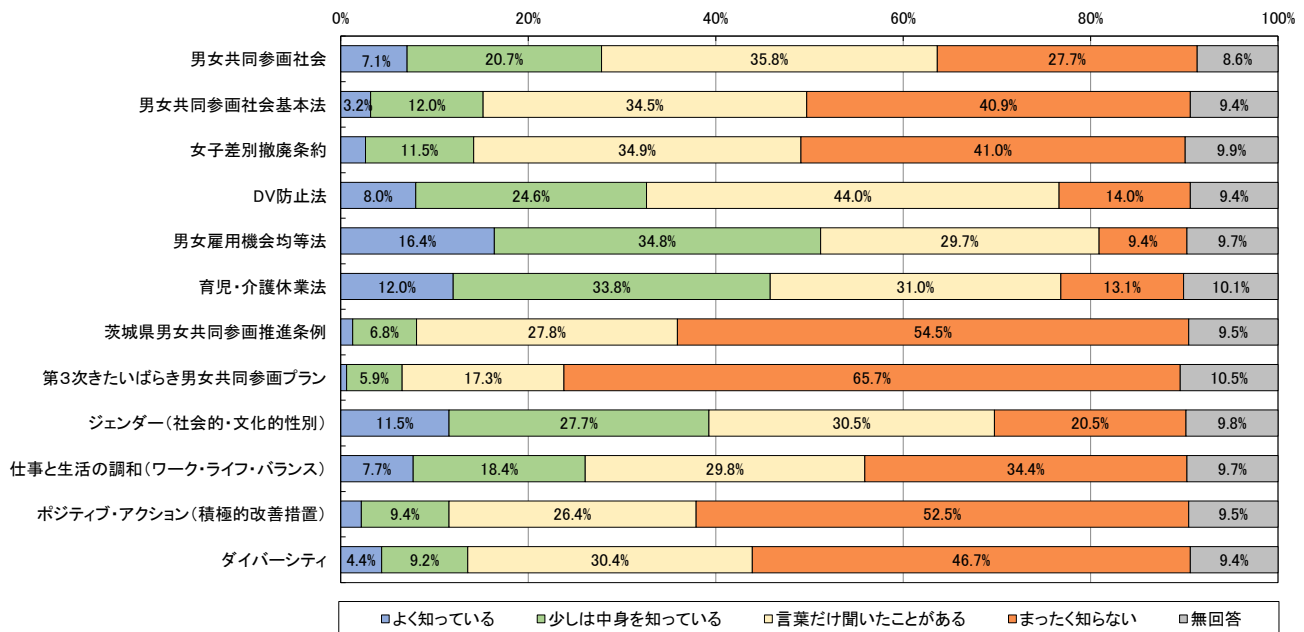
性的マイノリティの方々が差別などにあうことがなく、生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇特に必要だと思うもの3つまで)

「学校での教育」が45.6%と最も多く、次いで「働きやすい職場環境づくりの取組をする」が39.4%、「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取組を明記する」が33.3%となっています。



◇ 男女共同参画社会づくりについて

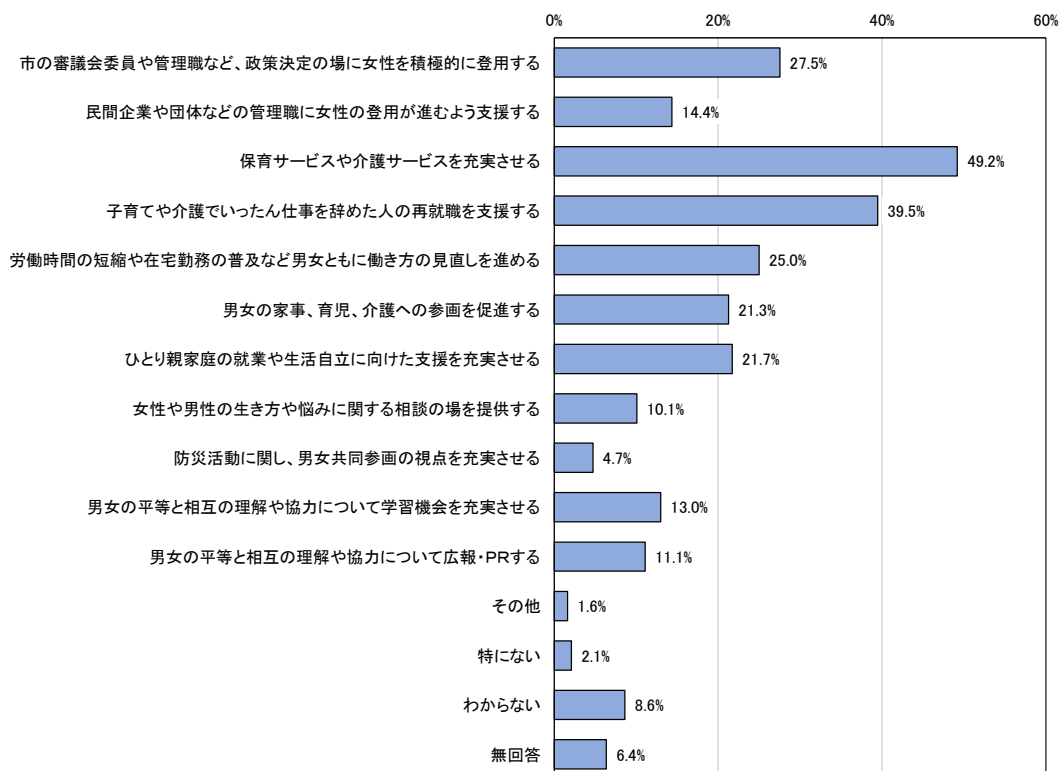
あなたは次の項目について男女共同参画に関するまでの項目について、どの程度知っていますか。(〇は各項目1つずつ)



(n=1,100)

男女共同参画社会を実現していくために、今後、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

「保育サービスや介護サービスを充実させる」が49.2%と最も多く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が39.5%、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が27.5%となっています。



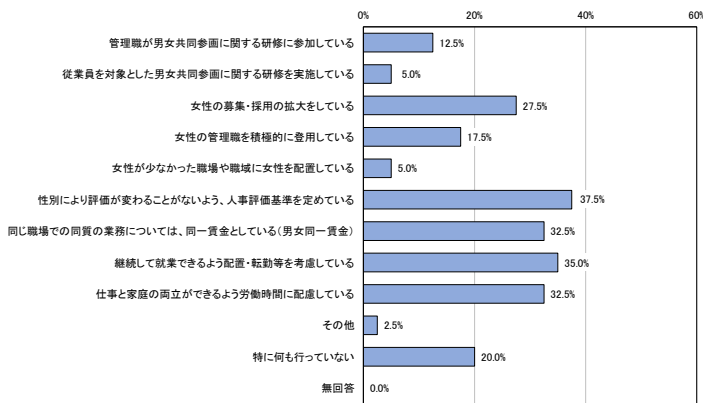
(n=1,100)

4. 事業所調査結果

◇ 女性の活躍推進・管理職登用について

男女共同参画の職場とするため、貴事業所ではどのような取組をされていますか。(あてはまるものすべてに○)

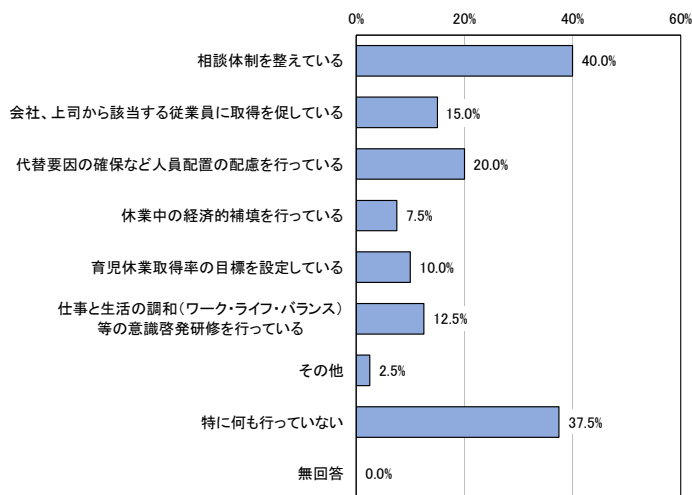
男女共同参画の職場とするため、貴事業所ではどのような取組をしているかについては、「性別により評価が変わることがないよう、人事評価基準を定めている」が37.5%と最も多く、次いで「継続して就業できるよう配置・転勤等を考慮している」が35.0%となっています。



項目	度数	比率
管理職が男女共同参画に関する研修に参加している	5	12.5%
従業員を対象とした男女共同参画に関する研修を実施している	2	5.0%
女性の募集・採用の拡大をしている	11	27.5%
女性の管理職を積極的に登用している	7	17.5%
女性が少なかった職場や職種に女性を配置している	2	5.0%
性別により評価が変わることがないよう、人事評価基準を定めている	15	37.5%
同じ職場での同質の業務については、同一賃金としている(男女同一賃金)	13	32.5%
継続して就業できるよう配置・転勤等を考慮している	14	35.0%
仕事と家庭の両立ができるよう労働時間に配慮している	13	32.5%
その他	1	2.5%
特に何も行ってない	8	20.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

男性の育児休業取得促進のための方策を何か行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

男性の育児休業取得促進のための方策については、「相談体制を整えている」が40.0%と最も多く、次いで「特に何も行ってない」が37.5%、「代替要因の確保など人員配置の配慮を行っている」が20.0%となっています。

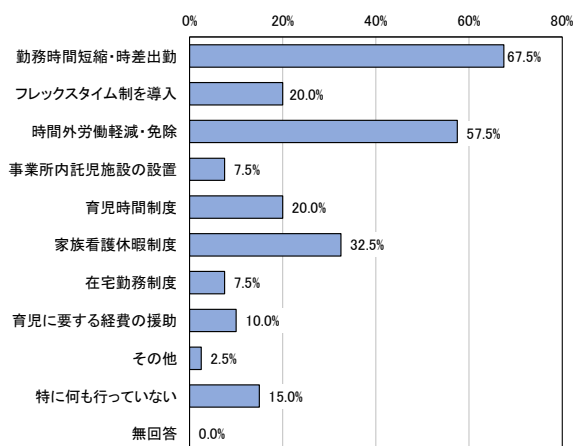


項目	度数	比率
相談体制を整えている	16	40.0%
会社、上司から該当する従業員に取得を促している	6	15.0%
代替要因の確保など人員配置の配慮を行っている	8	20.0%
休業中の経済的補填を行っている	3	7.5%
育児休業取得率の目標を設定している	4	10.0%
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)等の意識啓発研修を行っている	5	12.5%
その他	1	2.5%
特に何も行ってない	15	37.5%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

◇ 育児・介護との両立支援について

子どもを育てながら働いている従業員のために、特別な配慮や制度の設定等をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

子どもを育てながら働いている従業員のために、特別な配慮や制度の設定等をしているかについては、「勤務時間短縮・時差出勤」が67.5%と最も多く、次いで「時間外労働軽減・免除」が57.5%、「家族看護休暇制度」が32.5%となっています。

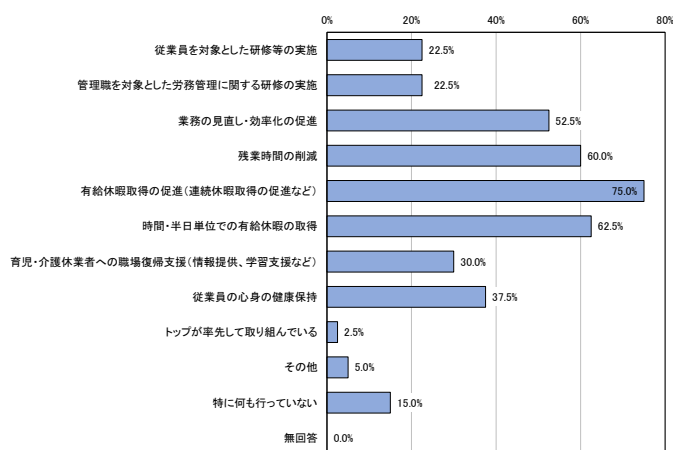


項目	度数	比率
勤務時間短縮・時差出勤	27	67.5%
フレックスタイム制を導入	8	20.0%
時間外労働軽減・免除	23	57.5%
事業所内託児施設の設置	3	7.5%
育児時間制度	8	20.0%
家族看護休暇制度	13	32.5%
在宅勤務制度	3	7.5%
育児に要する経費の援助	4	10.0%
その他	1	2.5%
特に何も行っていない	6	15.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

◇ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

貴事業所において、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するために取り組んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するために取り組んでいることはあるかについては、「有給休暇取得の促進（連続休暇取得の促進など）」が75.0%と最も多く、次いで「時間・半日単位での有給休暇の取得」が62.5%、「残業時間の削減」が60.0%となっています。

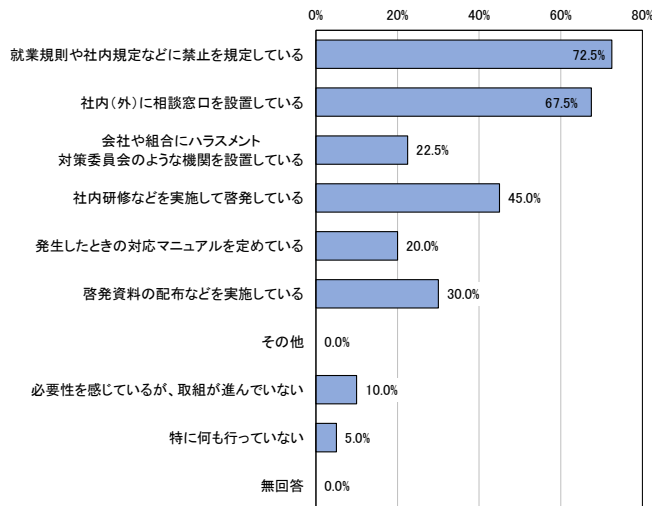


項目	度数	比率
従業員を対象とした研修等の実施	9	22.5%
管理職を対象とした労務管理に関する研修の実施	9	22.5%
業務の見直し・効率化の促進	21	52.5%
残業時間の削減	24	60.0%
有給休暇取得の促進（連続休暇取得の促進など）	30	75.0%
時間・半日単位での有給休暇の取得	25	62.5%
育児・介護休業者への職場復帰支援（情報提供、学習支援など）	12	30.0%
従業員の心身の健康保持	15	37.5%
トップが率先して取り組んでいる	1	2.5%
その他	2	5.0%
特に何も行っていない	6	15.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

◇ ハラスメントについて

貴事業所で「ハラスメント」の防止に対する取組を何か実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

「ハラスメント」の防止に対する取組を何か実施しているかについては、「就業規則や社内規定などに禁止を規定している」が72.5%と最も多く、次いで「社内(外)に相談窓口を設置している」が67.5%、「社内研修などを実施して啓発している」が45.0%となっています。

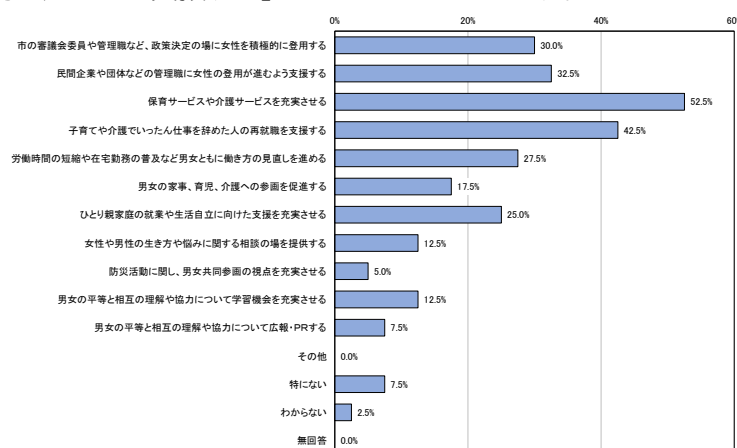


項目	度数	比率
就業規則や社内規定などに禁止を規定している	29	72.5%
社内(外)に相談窓口を設置している	27	67.5%
会社や組合にハラスメント対策委員会のような機関を設置している	9	22.5%
社内研修などを実施して啓発している	18	45.0%
発生したときの対応マニュアルを定めている	8	20.0%
啓発資料の配布などを実施している	12	30.0%
その他	0	0.0%
必要性を感じているが、取組が進んでいない	4	10.0%
特に何も行っていない	2	5.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

◇ 男女共同参画社会づくりについて

男女共同参画社会を実現していくために、今後、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○は特に必要だと思うものを3つまで)

男女共同参画社会を実現していくために、今後、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思うかについては、「保育サービスや介護サービスを充実させる」が52.5%と最も多く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が42.5%、「民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する」32.5%となっています。



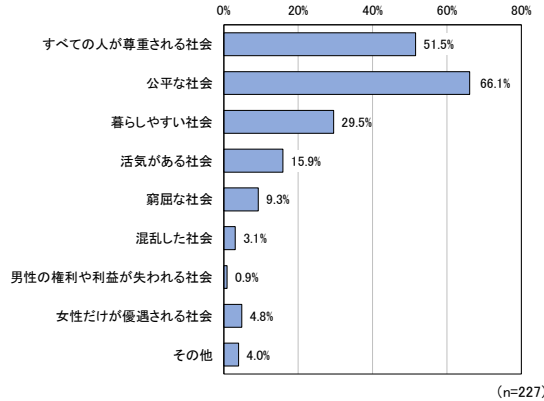
項目	度数	比率
市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	12	30.0%
民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	13	32.5%
保育サービスや介護サービスを充実させる	21	52.5%
子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	17	42.5%
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進め	11	27.5%
ひより親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる	7	17.5%
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	5	12.5%
防災活動に関し、男女共同参画の視点を充実させる	2	5.0%
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる	5	12.5%
男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	3	7.5%
その他	0	0.0%
特にない	3	7.5%
わからない	1	2.5%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

5. 職員調査結果

◇ 男女共同参画社会に関するイメージ

男女共同参画社会という言葉から、どのような社会をイメージしますか。(複数回答可)

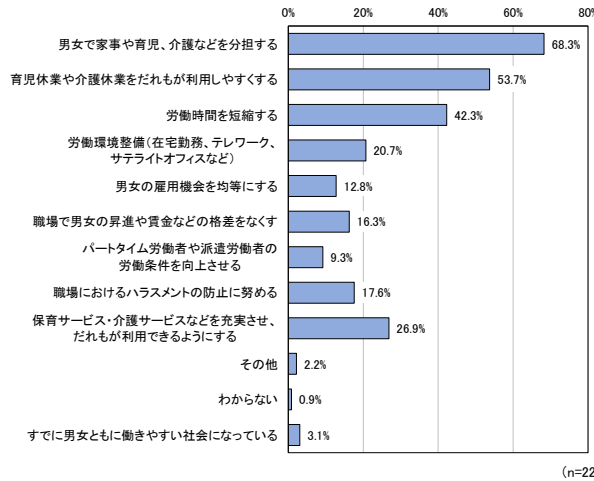
「公平な社会」が66.1%と最も多く、次いで「すべての人が尊重される社会」が51.5%となっています。



◇ 働きやすい社会環境のために必要なこと

男女ともに働きやすい社会の環境を作るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うこと3つまで)

「男女で家事や育児、介護などを分担する」が最も多く、68.3%、次いで「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が53.7%となっています。

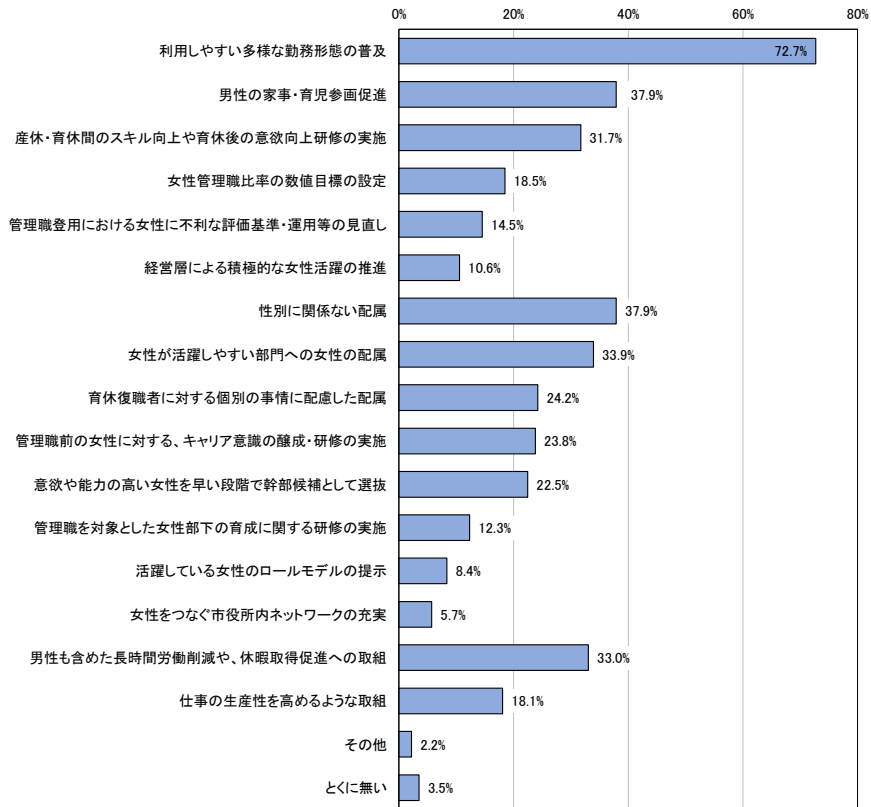


		男女で家事や育児、介護などを分担する	育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする	労働時間を短縮する	労働環境整備(在宅勤務、テレワーク、サテライトオフィスなど)	男女の雇用機会を均等にする	職場で男女の昇進や賃金などの格差をなくす	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場におけるハラスメントの防止に努める	保育サービス・介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする	その他	わからない	すでに男女ともに働きやすい社会になっている
性別	全体(n=227)	68.3%	53.7%	42.3%	20.7%	12.8%	16.3%	9.3%	17.6%	26.9%	2.2%	0.9%	3.1%
	男性(n=161)	67.7%	55.3%	40.4%	22.4%	16.8%	13.0%	9.3%	17.4%	22.4%	1.2%	0.6%	3.7%
	女性(n=65)	69.2%	50.8%	46.2%	16.9%	3.1%	24.6%	9.2%	16.9%	38.5%	4.6%	1.5%	1.5%
年齢別	全体(n=227)	68.3%	53.7%	42.3%	20.7%	12.8%	16.3%	9.3%	17.6%	26.9%	2.2%	0.9%	3.1%
	20歳未満(n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20~29歳(n=57)	66.7%	57.9%	42.1%	31.6%	8.8%	10.5%	8.8%	8.8%	17.5%	3.5%	1.8%	5.3%
	30~39歳(n=53)	66.0%	56.6%	50.9%	26.4%	9.4%	5.7%	7.5%	20.8%	37.7%	1.9%	0.0%	3.8%
	40~49歳(n=58)	79.3%	50.0%	44.8%	15.5%	10.3%	27.6%	3.4%	19.0%	29.3%	1.7%	0.0%	1.7%
	50~59歳(n=53)	60.4%	52.8%	32.1%	9.4%	18.9%	18.9%	18.9%	20.8%	26.4%	1.9%	1.9%	1.9%
	60歳以上(n=4)	75.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◇ 女性管理職について

女性管理職を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「利用しやすい多様な勤務形態の普及」が72.7%と最も多く、次いで「男性の家事・育児参画促進」、「性別に関係ない配属」が37.9%となっています。



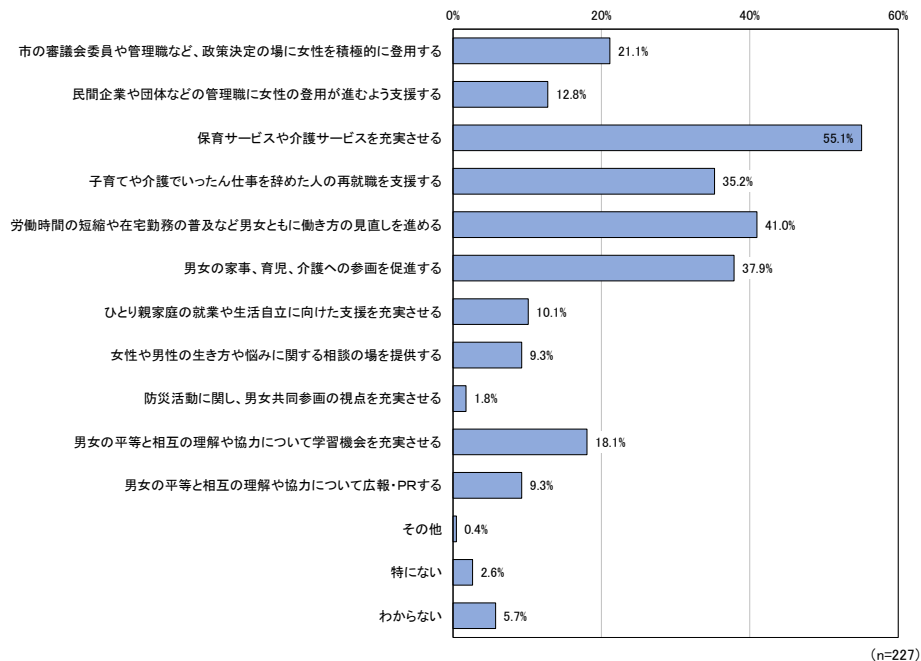
(n=227)

	利用しやすい多様な勤務形態の普及	男性の家事・育児参画促進	産休・育休間のスキル向上や育休後の意欲向上研修の実施	女性管理職比率の数値目標の設定	管理職登用における女性に不利な評価基準・運用等の見直し	経営層による積極的な女性活躍の推進	性別に関係ない配属	女性が活躍しやすい部門への女性の配属	育休復職者に対する個別の事情に配慮した配属	管理職前の女性に対する、キャリア意識の醸成・研修の実施	意欲や能力の高い女性を早い段階で幹部候補として選抜	管理職を対象とした女性部下の育成に関する研修の実施	活躍している女性のロールモデルの提示	女性をつなぐ市役所内ネットワークの充実	男性も含めた長時間労働削減や、休暇取得促進への取組	仕事の生産性を高めるような取組	その他	とくに無い
全体 (n=227)	72.7%	37.9%	31.7%	18.5%	14.5%	10.6%	37.9%	33.9%	24.2%	23.8%	22.5%	12.3%	8.4%	5.7%	33.0%	18.1%	2.2%	3.5%
男性 (n=161)	68.3%	35.4%	33.5%	19.3%	13.7%	10.6%	42.9%	33.5%	19.9%	23.0%	19.9%	12.4%	7.5%	3.7%	30.4%	17.4%	1.9%	3.7%
女性 (n=65)	84.6%	44.6%	27.7%	16.9%	16.9%	10.8%	26.2%	35.4%	35.4%	26.2%	27.7%	12.3%	10.8%	10.8%	38.5%	18.5%	3.1%	3.1%
全体 (n=227)	72.7%	37.9%	31.7%	18.5%	14.5%	10.6%	37.9%	33.9%	24.2%	23.8%	22.5%	12.3%	8.4%	5.7%	33.0%	18.1%	2.2%	3.5%
20歳未満 (n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20～29歳 (n=57)	77.2%	43.9%	35.1%	15.8%	17.5%	15.8%	33.3%	26.3%	29.8%	24.6%	24.6%	14.0%	10.5%	8.8%	38.6%	17.5%	1.8%	5.3%
30～39歳 (n=53)	71.7%	43.4%	32.1%	18.9%	15.1%	7.5%	37.7%	30.2%	26.4%	18.9%	11.3%	9.4%	3.8%	1.9%	35.8%	17.0%	3.8%	0.0%
40～49歳 (n=58)	67.2%	36.2%	29.3%	20.7%	17.2%	6.9%	44.8%	34.5%	22.4%	20.7%	24.1%	12.1%	10.3%	3.4%	27.6%	22.4%	1.7%	1.7%
50～59歳 (n=53)	75.5%	26.4%	30.2%	18.9%	9.4%	13.2%	34.0%	43.4%	18.9%	32.1%	26.4%	13.2%	7.5%	9.4%	32.1%	13.2%	1.9%	7.5%
60歳以上 (n=4)	50.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◇ 男女共同参画社会の実現に向けて

今後、男女共同参画社会を実現していくために、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

「保育サービスや介護サービスを充実させる」が55.1%と最も多く、次いで、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」が41.0%となっています。



		市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	保育サービスや介護サービスを充実させる	子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	男女の家事、育児、介護への参画を促進する	ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	防災活動に関し、男女共同参画の視点を充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	その他	特にない	わからない
性別	全体 (n=227)	21.1%	12.8%	55.1%	35.2%	41.0%	37.9%	10.1%	9.3%	1.8%	18.1%	9.3%	0.4%	2.6%	5.7%
	男性 (n=161)	24.8%	11.8%	56.5%	37.9%	36.0%	36.6%	8.1%	8.1%	0.6%	17.4%	12.4%	0.6%	2.5%	4.3%
	女性 (n=65)	12.3%	15.4%	52.3%	29.2%	52.3%	41.5%	15.4%	12.3%	3.1%	18.5%	1.5%	0.0%	3.1%	9.2%
年齢別	全体 (n=227)	21.1%	12.8%	55.1%	35.2%	41.0%	37.9%	10.1%	9.3%	1.8%	18.1%	9.3%	0.4%	2.6%	5.7%
	20歳未満 (n=2)	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳 (n=57)	17.5%	15.8%	52.6%	31.6%	36.8%	31.6%	8.8%	15.8%	7.0%	7.0%	0.0%	0.0%	3.5%	8.8%
	30～39歳 (n=53)	20.8%	13.2%	58.5%	39.6%	43.4%	43.4%	15.1%	5.7%	0.0%	18.9%	11.3%	0.0%	0.0%	1.9%
	40～49歳 (n=58)	15.5%	10.3%	60.3%	34.5%	46.6%	48.3%	5.2%	6.9%	0.0%	24.1%	6.9%	1.7%	3.4%	5.2%
	50～59歳 (n=53)	28.3%	11.3%	49.1%	35.8%	35.8%	32.1%	13.2%	7.5%	0.0%	22.6%	11.3%	0.0%	3.8%	7.5%
60歳以上 (n=4)	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

北茨城市
男女共同参画社会に関する意識調査報告書
《概要版》

令和4年5月

北茨城市まちづくり協働課
〒319-1592
茨城県北茨城市磯原町磯原 1630 番地
電話番号：0293-43-1111
